

## 第9回認知症の支援に関する意見交換会

### 『作業部会の活動報告 ～現場の声から生まれた医療相談ツール～』

発表者：認知症施策との連携に関する作業部会 リーダー 中尾 滋久 氏  
那覇市医師会 ちゅいしーじー那覇 小濱 美咲

### 『認知症診療における情報収集の重要性』

講師：天久台病院 認知症疾患医療センター センター長 松隈 憲吾 氏

○日 時：令和8年3月10日（火） 午後7時00分～9時00分

○場 所：那覇市医師会・4階ホール

○参加者：32名（認知症サポート医・認知症専門医：6名、医療従事者：8名、  
地域包括支援センター13名（うち那覇市認知症地域支援推進員：10名）、  
介護支援専門員：1名、行政：4名）

【目的】早期からシームレスな連携が取れる認知症支援網の構築を図る

【対象】認知症サポート医、認知症専門医、認知症地域支援推進員、  
認知症疾患医療センター、認知症の支援に関心のある医師、  
介護支援専門員など

【司会】  
在宅医療担当理事  
上間 一 氏



**サマリー** 本アンケートでは、事例や動画を通じて本人視点の支援を考える機会となり、「動画を見て考えさせられた」「本人に目を向けたインテークの必要性を実感した」など、支援の視点に関する気付きが多く寄せられた。また、「アセスメントの参考になった」「業務に反映させたい」といった意見から、現場実践への活用可能性も確認された。一方で、「シート活用が広がるのは良いが記入の負担が生じないか気になる」といった意見もあり、医療相談ツールの活用にあたっては現場の負担軽減や運用方法の整理が課題として挙げられる。今後は、多職種での事例共有や研修機会を継続するとともに、現場で活用しやすい形でツールや支援方法を整理し、地域全体で本人視点の支援を実践できる体制づくりを進めていく必要がある。

中尾 滋久 氏

認知症施策との連携に関する  
作業部会 リーダー



小濱 美咲

那覇市医師会  
ちゅいしーじー那覇



松隈 憲吾 氏

天久台病院  
認知症疾患医療センター



実際に医療相談ツールを活用して医師に相談するロールプレイ（グループワーク）および発表

令和8年3月10日（火） 19:00～21:00 那覇市医師会・4階ホール

## テーマ：認知症診療における情報収集の重要性

### 『作業部会の活動報告～現場の声から生まれた医療相談ツール～』

認知症施策との連携に関する作業部会 リーダー 中尾 滋久 氏  
那覇市医師会 ちゅいしーじー那覇 小濱 美咲

### 『認知症診療における情報収集の重要性』

天久台病院 認知症疾患医療センター  
センター長 松隈 憲吾

参加者：32名 < 認知症サポート医・認知症専門医：6名、医療従事者：8名、  
地域包括支援センター：13名（うち那覇市認知症地域支援推進員：10名）、  
介護支援専門員：1名、行政：4名 > \* 作業部会委員含む

アンケート回答者：22名（回収率：91.6%） \* 回収率は作業部会委員を除いた人数で計算。

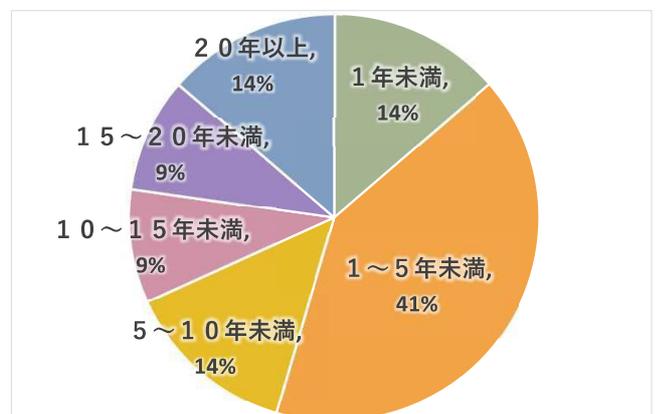
#### 1. 職種について（複数回答可）

経験年数	人数	割合
認知症サポート医／認知症専門医	4	18%
その他医師	0	0%
歯科医師	0	0%
医療従事者	6	27%
認知症地域支援推進員	8	36%
介護支援専門員	1	5%
包括支援センター職員、行政	3	14%
総計	22	100%



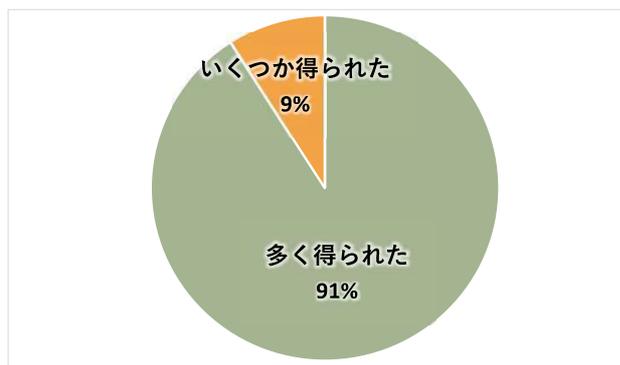
#### 2. 現在の業務に就いて何年になりますか。

選択肢	人数	割合
1年未満	3	14%
1～5年未満	9	41%
5～10年未満	3	14%
10～15年未満	2	9%
15～20年未満	2	9%
20年以上	3	14%
総計	22	100%



### 3. 松隈 憲吾 氏『認知症診療における情報収集の重要性』の話から、新しい視点や気づきを得られましたか。

選択肢	人数	割合
多く得られた	20	91%
いくつか得られた	2	9%
あまり得られなかった	0	0%
得られなかった	0	0%
総計	22	100%



#### < 医師 >

- ・精神科的治療について学べた。
- ・動画をもらえるまでの家族との関係構築、心理教育のワザが学べた。

#### < 医療従事者 >

- ・背景をしっかりと聞き取れるようなポイントがたくさん学べた。
- ・本人に目を向けたインテークの必要性を実感した。
- ・とても良かった。すごく刺さる内容だった。アセスメントの参考になった。
- ・家族への教育的な介入は、タイミングや方法を工夫しないと家族も負担になるため、動画を通して家族の思いを受け止めながら介入されていて良かった。
- ・視点の違いで気付くことがある。どの立場で話しを聞くのかでも聞き方が変わる。

#### < 認知症地域支援推進員 >

- ・生活するうえでの障害に耳を傾ける。本人からの視点に立つ。
- ・動画を見て考えさせられました。デイサービス利用時の表情がとても良かった。動画を家族に見返す機会をつくる方法は素晴らしいと思った。
- ・業務に反映させたいと思いました。
- ・どっちの立場（本人・家族）になるかは考えさせられる。一方通行にならないようにしたい。
- ・家族が本人との関りを客観的にみるのはとても大切だと感じます。動画の活用もとても良いと思いました。
- ・本人目線、家族目線でより具体的な情報収集をしていきたいと思っています。

#### < 介護支援専門員 >

- ・本人目線、出来ることに着目することが大切。

#### < 包括支援センター職員、行政 >

- ・情報収集の視点を整理する材料をいただきました。ご本人の立場、ご家族の立場、どの立場でみるのか考えさせられました。
- ・本人のADL、IADL、成育歴等の背景の情報が重要な項目であることを再認識した。

### 4. グループワーク（①認知症に関する医療相談ツールのロールプレイ、②本日の学び・気づき）はいかがでしたか。

#### < 医師 >

- ・皆さんのお困り事がよく分かりました。

<医療従事者>

- ・良かった。
- ・家族に聞き取りをすることが多い中、本人の声を聞き取るようにしたい。
- ・シートの普及・活用が広がるのは良いことだが、書くことに負担（時間）が生じないか気になった。認知症疾患医療センター（または相談員がいる精神科の医療機関）はフェイスシート  
の提供で支障は感じていない。シート活用と同様に気軽に相談していただければと思う。

<認知症地域支援推進員>

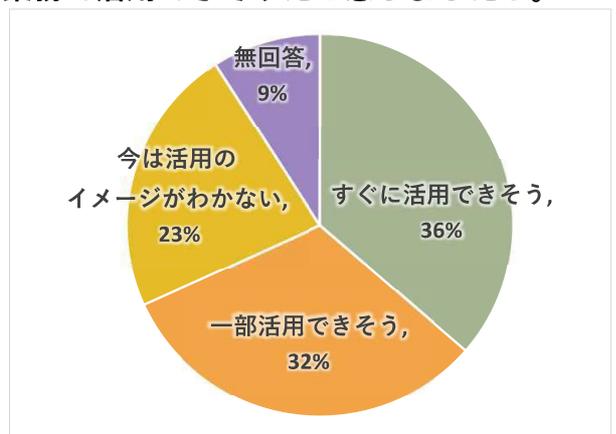
- ・多く得た。
- ・多くの方が認知症支援に悩んでいるのを感じました。ツールがうまく利用されていないのは残念
- ・医療相談ツールを積極的に活用しようという話しまではしなかった。
- ・使ってみる体験はとても良いものだと思います。
- ・シートを実際に使用して分かったことが多かった。医師からのアドバイスもいただけて、  
とても学びがあった。
- ・書いた内容をその場で先生から意見をもらえると、難しい表現など難しく考えなくて良いと  
思った。
- ・医療相談ツールをどの方に使うのか、何をアセスメントして書き出すと良いのか、支援者の  
主観的評価ではなく客観的なことが一目で分かるシートになると良いのではと感じました。
- ・シートの活用方法が少し分からなかったです。実際にロールプレイをしてみて、今後の使い  
方、どういう事例だったら受け入れてもらえるのか…迷ってしまいました。

<包括支援センター職員、行政>

- ・参加者と意見交換ができ、困っていること等が聞けて新しい発見があった。
- ・ちょうど今日、職場で話題になった事例を相談して支援の糸口が見えた。相談ツールを活用  
していきたいと思った。

5. 『認知症に関する医療相談ツール』は、今後の業務で活用できそうだと感じましたか。

選択肢	人数	割合
すぐに活用できそう	8	36%
一部活用できそう	7	32%
今は活用のイメージがわからない	5	23%
活用は難しいと感じた	0	0%
無回答	2	9%
総計	22	100%



<医師>

- ・記入方法の工夫が必要と考える。

<医療従事者>

- ・もう少しADLなどのチェックボックスがあると良いと思う。
- ・グループワークでも意見したが、主訴をチェック式にすると使いやすいと思った。

< 認知症地域支援推進員 >

- ・シートを使うことでサポート医が受けてくれる書き方が知りたいです。  
(虎の巻?チェック方式?)
- ・活用したいと思います。
- ・これまで医療機関に相談する時は、包括システムの基本情報シートを用いて情報を共有していたので使う機会がなかったというのが正直なところ。認知症疾患医療センターに相談しておけば安心なのでサポート医に相談する感覚もありませんでした。
- ・やはり報酬面が気になり相談に気が引けます。かかりつけ医から専門の医療機関へつながるケースが多い為、ツールを使う機会がない。

< 介護支援専門員 >

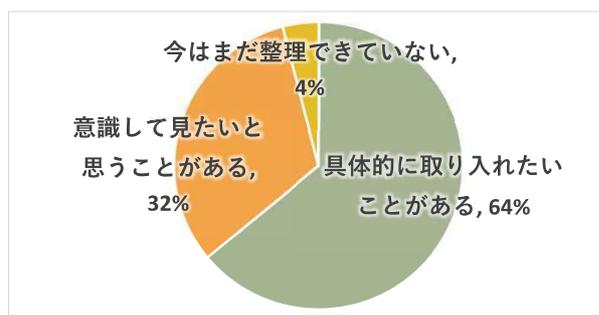
- ・現在、在宅での支援ではないため、活用は出来ないが地域へ出る際には活用したい。

< 包括支援センター職員、行政 >

- ・ツールを試しに使ってみたいと思います。

6. 今回の研修を受けて、今後の業務での意識や行動について、最も近いものを選んでください。

選択肢	人数	割合
具体的に取り入れたいことがある	14	64%
意識して見たいと思うことがある	7	32%
今はまだ整理できていない	1	4%
特に変化は感じていない	0	0%
総計	22	100%



< 医師 >

- ・相談が来たらのります。

< 医療従事者 >

- ・アセスメント（具体的に本人視点に立つ）
- ・生活障害についての詳しい聞き取り、本人への聞き取り。
- ・誰が何に困っているのか?元々できることから、現在の生活の様子が分かりアセスメントすることができる。

< 認知症地域支援推進員 >

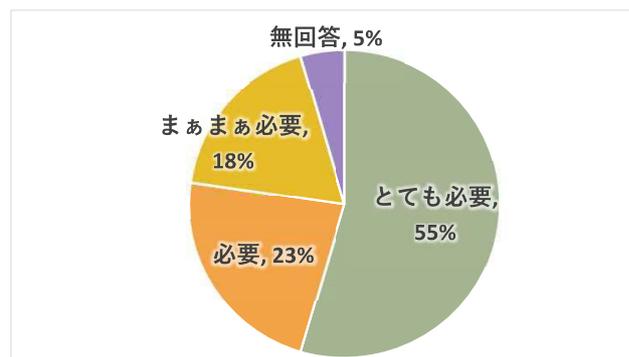
- ・医師から直接いただいた助言は試してみたいと思いました。
- ・背景を知る。どっちの立場で聞いているのか気を付けていく。
- ・情報収集の基本フレーム、背景にあるニーズを想像することの大切さを改めて感じた。
- ・松隈先生の情報収集の視点を取り入れていきたい。
- ・動画の活用。
- ・より具体的な情報収集、動画の活用は意識していきたいです。

< 介護支援専門員 >

- ・本人の出来る事へ着目していく。本人から聞き取る。

## 7. 今後も当意見交換会の必要性を感じますか。

選択肢	人数	割合
とても必要	12	55%
必要	5	23%
まあまあ必要	4	18%
必要ではない	0	0%
無回答	1	5%
総計	22	100%



### < 医療従事者 >

- ・ 違う包括の職種の意見が聞けるのはとても参考になる。

### < 認知症地域支援推進員 >

- ・ 情報の取得、他参加者の意見を聞くことは、とても貴重な機会になっています。
- ・ 患者さん（利用者さん）目線が大切だと改めて感じさせられるので、意見交換はとても大切。
- ・ 他職種や医師の意見が聞けて良かった。
- ・ ちゅいしーじー那覇の皆さまはよくやって下さっているので、包括側にサポート医を活用する意識が必要だと思いました。認知症疾患医療センターがそんなにパンク状態だとは思いませんでした。
- ・ 新しい医療職の方々と出会いたい。

### < 包括支援センター職員、行政 >

- ・ サポート医の先生にもご意見を聞きたかったです。

## 8. 「認知症の支援」について今後希望するテーマがございましたら、お聞かせください。

- ・ 金銭管理について
- ・ 事例をもとに、成功事例・良かった事例がもっと聞きたいです。
- ・ B P S Dについて
- ・ 運転免許返納について